

支援学級の児童同士をつなぐ

～全体活動を通して～

寝屋川市立東小学校 丸本 周平

1. はじめに

本校の支援学級は、現在 20 人以上の児童が在籍している。児童と保護者の願いに沿って学習態勢を決めているので、3 人の支援担任では、それぞれの担当児童と毎時間学習していくことは難しい。また、年間を通してクラスの時間割が変わることも多いため、在籍している児童全員での活動が少なくなり、児童同士のつながりが作りにくい。

今年度は、大きな活動ができていないが、昨年度に実施した全体活動「八百屋さん」が大変効果があったので、それを全体活動の参考として紹介したい。

2. 目的と計画

(1) 目的

以下の項目の力を養わせていく。

- ・ 全体活動を通しての協調性や仲間意識
- ・ お客さん役の多くの先生からほめてもらえる満足感や自信
- ・ 商品が売り切れになった時の達成感
- ・ 野菜を袋詰めにする過程での計算力や集中力
- ・ お客さんが喜ぶ工夫・おもいやり
- ・ 売る立場としての責任感

(2) 計画

八百屋さんを開くまでに行ったこと（日付と参加学年）

①じゃがいもの土を落とす。（10/21、全学年）

畑で収穫したじゃがいもの土をきれいに落としていった。手では限界があるので、スポンジなどを使って落とすなど工夫をした。手作業が好きな児童は、とても集中して取り組んでいた。

②じゃがいもの重さを測って選別。（10/22～24、3年～6年）

土を落としきったじゃがいもを、はかりで測って分けていった。3年生の学習で重さが出てくることもあり、この活動は3年生を主に行った。学習の1つとして行ったため数日かかったが、はかりにのせる時の児童の表情は良く意欲的だった。

③袋売りするじゃがいもを決める。（10/27、3年～6年）

重さと大きさごとにわけたじゃがいもを、均等になるように組み合わせでいった。その際、売れないじゃがいもがあるかの確認も行った。中には痛みかけのものもあったので、作業は3年生以上で行った。たくさんのじゃがいもを自分たちでセットに分けていくことは楽しく、とても小さいものはどうするかなど、真剣に考えている姿は微笑ましかった。

④袋詰め、メッセージカード作り（10/28～29、全学年）

セットに分けたじゃがいもを袋に次々と入れていった。袋に入れた後は、中身がこぼれないように、きちんとひもでくくっていった。メッセージカードの準備は1日では不足、2日かかったが袋の分だけ用意できた。久しぶりに低学年の児童も出来る作業で、がんばってくれていた。メッセージカードは、照れて書きたくない児童もいたが、ほかの児童たちが協力して代わりに書いてくれるなど助け合いがあった。

⑤チラシ作り（10/30、全学年）

せっかくなのでチラシ作りもしようということになり、それぞれが良いと思ったじゃがいもの写真を取り、それをもとに作った。チラシ作りの際は、実際のスーパーのチラシを参考にお客さんが買いたいと思うチラシ作りをめざした。あまり字を書く事が好きでない児童も、この活動には参加することができ、数枚作ることができた。

⑥看板作り（10/31、3年～6年）

いつもの支援学級教室のままでは味気ないという児童の発言から急遽、看板を作る話が出たので、低学年以外で作ることにした。元々、工作が好きな児童が多く、話が決まると早速ダンボールを取りに行くなど、今までの中で一番いきいきとしていた。それぞれ、扉の前に置くものと台の上に置くもの、手に持って宣伝するものを完成させた。

⑦チラシ配り（11/5～6、全学年）

完成させた、チラシを先生たちに配りにいった。児童たちは、恥ずかしがったり、緊張したりと様々だったがきちんと配ることができ配り終えた後は、みんな一安心した様子だった。どの子もがんばってきたので、職員室で改めて先生たちに来てくれるように、私たちからもお願いした。

⑧販売の練習と販売（11/7、全学年）

八百屋さんは、2時間目の終わりに開くので、1、2時間目に少しの時間販売の練習を行った。練習時のお客さん役は、支援担任や児童だったので緊張もすることなくやっていた。

本番の販売では、授業が終わった児童からやってきて先生たちが来るのを今か今かとドキドキしながら待っていた。たくさんの先生が来てくれ、はじめは驚いて児童たちも少しずつ慣れ頑張って販売していた。あつと言う間に、売り切れてしまったが、児童たちはたくさん褒めてもらえたことで、とても良い表情をしていた。

3. 結果と反省

本校では、支援学級での取り組みの内容は、算数や国語といった教科の個別学習や入りこみでの支援の割合が多い。そのため、児童も支援担任も勉強のことに意識がいつてしまい、難しくて出来ないと勉強に対して苦手意識や自信をなくさせてしまう危険性を時に感じる。しかし、八百屋さんの全体活動を行ったことで、児童たちの新しい一面を見ることができ、終わった後の表情からは、嬉しさと達成感に満ちていて、自信の回復につながったのではないかと感じた。また、それまで希薄だった児童同士のつながりもこの活動のおかげで随分と強くなったと感じた。

反省としては、計画を立ててから販売まで時間を多くとってしまった。そのため、収穫したじゃがいものいくつかを処分することにもなってしまった。

4. おわりに

新しく年度が変わり、人数が増えた本校の支援学級は、去年度八百屋さんを取り組んだ児童たちは、少しずつではあるがクラスでも支援学級でも自分の課題に向かって頑張っている。新しく入って来た児童たちにも気にかけてくれたりもしている。しかし、支援学級に在籍している児童全員が一緒になって取り組む活動ができていないため、全員の共通認識が完璧ではない。

学力ももちろん大切だが、児童同士がつながる架け橋をつくってあげることが、支援学級担任の重要な課題でもあるので、今年度も全体活動を行えるよう計画を練っていきたい。